

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	市内で診療所、こどもクリニック、歯科クリニック等の医療サービスや様々な介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペース「わいが家」を併設し、地域住民との交流の場になっている。診療所、居宅介護支援事業所をはじめとした複数の同法人事業所が近隣にあり連携に努めている。ご利用者ひとりひとりの笑顔を引き出す事を目指し柔軟性ある個別ケアに取り組んでおり近年は近隣の保育所や小学校の子供たちと触れ合う機会も増えている。
事業所名	プラット新町	管理者	渡辺 裕太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	3人	2人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリ支援回数の増加依頼を継続し、増加が確定した段階で情報交換方法について検討していく。 ●柔軟な支援に必要な介護技術や経験を得る為に各種研修会に参加していく。また、事業所内でも短時間の勉強会を行っていく。 ●新規利用者受け入れ担当は固定せず、事前訪問や契約に可能な限り現場職員が同行する。 ●外部評価の流れについての学習会とは別に、「事業所自己評価」の内容について振り返り、学習する場を設ける。また、外部評価の進行状況を定期的に確認する機会を作る。(概ね2か月毎に部署会議内で行う) 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援回数は週1回から週2回に増加させることができた。そのおかげで、より多くの利用者へのリハビリ支援ができ、情報交換もスムーズにできている。 ●各種研修会についてはコロナウイルスの影響で参加できなかった。新年度からは事業所内研修会を多く取り入れていく予定。 ●新規利用者受け入れ担当は固定しなかったが、管理者・ケアマネ以外の職員は同行できなかった。 ●外部評価が始まる前には事業所内で伝達を行えたが、その後の進行状況については定期的な確認の機会が取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響で外部研修への参加は難しかったと思うが、事業所内や法人内での研修も少なからず参加でき、伝達出来ていたならば評価できると思う。 ●「担当職員紹介シート」の作成は、体制的にその方に対して担当職員と言う形で“全て”は厳しいと思う。担当職員の役割が明確になっていると良いと思う。 ●オンライン開催の研修も増えている。参加できない状況でも学ぶ機会の確保が出来ると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で各種研修会への参加は中々難しい為、テーマを決めて事業所内学習会、研修会を積極的に行っていく。また、オンライン開催の研修にも着目し参加できる機会を作っていく。 ●継続して新規利用者受け入れ担当は固定せず、人員体制を見ながら現場職員も契約や事前訪問に同行できるようにする。同行できなかった場合は、アセスメント等を参考にしながら情報を共有する時間を確保する。 ●外部評価の理解をより深める為に、定期的にサービス評価の進捗状況を全職員が集まる部署会議で報告する機会を作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●わいが家にて半年毎に行っている壁面飾りの貼り出しを継続し、毎月撮っている壁面飾りの写真をアルバム等にまとめ閲覧できるようにする。また、作品数の多い利用者については個人の作品展を実施していく。 ●引き続き玄関前の環境整備の強化を行う(看板の設置、玄関前のプラントナー等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●壁面飾りのわいが家展示は継続できている。ただ、多くの方々に関心を持って頂くにはもうひと工夫必要。また、個人の作品展の実施は大々的にはできていないが、施設内に飾り一定期間過ぎたらご本人にお返ししている。 ●玄関前の環境整備については定期的に、お花を植えたりしている。看板の設置はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の中には入りやすいと感じるが玄関の位置が分かりづらいのか迷われる方が多いと感じる。近隣施設もある為、看板などの設置等工夫が必要と感じる。 ●玄関前に草花を植える事は良い事だと思ふ。生育状況に留意して枯れたら即撤去の対応をお願いしたい。 ●夕方や降雨時の暗い時間帯に照明がもっと明るいと良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して壁面飾りをわいが家に貼り出し、地域の方々に見てもらおう・施設を知ってもらおう(印象付ける)取組を行っていく。 ●継続して玄関内外の環境整備を定期的に行う。(花植え、野菜作り等)また、分かりやすい看板の作成、設置を検討していく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●老健あらまちとの合同行事の実施を企画していく。 ●こども園と合同で行事や催し等を企画し、実施する。 ●昨年度と同様に近隣の教育施設との交流を活発に行い、最寄りの中学校との交流の機会を作っていく。 ●定期的にプラット新町の「活動報告」を回覧板に回し、介護相談の窓口の機能もある事を載せる。同時にコミセンへの掲示依頼をする。 ●コミセンで行われる行事や活動に職員が参加していき、地域住民の困りごとを吸い上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響で、老健あらまちとの合同行事は出来ていない。同じく、コミセンとの連携や近隣教育施設との交流はできなかった。 ●近隣保育園との交流は、触れ合いなどの交流は全くできなかったが、コロナ禍において、作品交換での新しい交流の仕方に変更した。交流の機会を減らさず、関係作りの継続はできていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミセン行事への参加は有効だと思うし、プラット新町の活動報告を回覧板で定期的に回すことで身近に受け入れ施設がある事を周知できると思う。 ●職員の電話対応等はとても丁寧だと思う。 ●地域イベント等の参加について、今年度はプラット新町に限らず困難だったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスに留意しながらできない事だけを考えるのではなく、コロナ禍でもできる事を模索しながら近隣施設との交流の継続をしていく。(こども園との作品交換、コミセンとの連携等) ●継続して、回覧板にプラット新町の紹介や活動報告などを載せて地域の方に知ってもらい取り組みを行う。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「興味・関心チェックシート」から得た情報を元に実現可能かつ優先すべきものを抽出し、1つ以上の項目を実現する。 ●民児協定例会議への参加を継続し民生委員との協力関係を築いていき、地域の心配な方の情報交換もしていく。 ●家族向けの介護相談会・懇親会を開き、ご近所や知り合いの方の参加も呼び掛けていく。情報交換の中で必要があれば地域包括支援センターとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックシートを元に実現はなかなかできなかったが、個別ケアの重要性、大切さは各職員に適時伝えていった。少しずつ個別ケアの数が増えてきている。 ●コロナウイルスの影響により、民児協定例会議への参加は出来なかった。 ●コロナウイルスの影響により、相談会・懇親会は開催できていない。地域包括支援センターとは適時、情報のやり取りをし、新規相談など可能な限り連携が取れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご利用者のケアとして地域へ買い物(外出)に出かけられた事なども評価できると思う。 ●感染予防の為の制約がある中で今できる形を考えて地域との繋がりが途絶えないよう取り組んで欲しいと思う。 ●若い世帯は関心が無いと思うが、高齢者がいる家庭ではそれなりに認識していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別ケアに力を入れる為、定期的に(概ね3カ月くらい)個別ケア強化月間を設け、職員のスキルアップ・個別ケアの質の向上を図る。 ●感染症対策の徹底、状況を見ながら継続して介護相談会・懇親会の開催を設け、ご近所や知り合いの方などに情報を発信できるようにしていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進委員に地域の実情に詳しい方に入って頂き会議内で地域の課題等について情報交換をする。(近隣町内の町内会長様等) ●プラット新町運営推進会議に役職者以外の職員も参加していき、現場での困りごと、地域の方や他法人の方に聞いてみたい事を聞ける機会を確保する。 ●事業所からの報告内容を簡素化し、地域の課題について検討する時間を設ける。 ●地域包括支援センターと連携し、様々な制度や虐待について直接または間接的に知る機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響で、会議が出来ず、また報告・検討内容も限られていた為地域の課題について情報交換する機会は設けられなかった。 ●人員体制的に役職者以外の職員の運営推進会議参加は実現できなかった。 ●今年度は地域に出ていく機会が得られず、地域の課題や検討内容を知る事ができなかった。 ●包括支援センターとは改善計画にある制度や虐待について聞く機会を設ける以前に、まだまだ連携が足りていないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議では多くの機関の方の参加がありとても良いと思う。 ●地域の様々な役割を担っている方々の参加により色々な声が聴ける会議だと思う為、引き続きよりよい会議開催を心がけてほしい。 ●運営推進会議への参加は役職者以外の参加が見たことが無い為、現場職員の参加できる機会があれば良いと思う。 ●地域の方の意見を聞く場としても、そのような事例を出して頂く機会を設けられると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●できる限り、役職者以外の職員も運営推進会議に参加をし、理解を深める。多くの職員が会議を通して地域密着型施設の役割を把握できるようにしていく。 ●各職員から会議で取り上げてほしい事・地域に対しての疑問点・地域へ発信したい事を聞き取り、地域と施設お互いの事を知る機会を作っていく。 ●地域包括支援センターとの連携を継続し、話を聞く機会を設ける。

F. 事業所の
防災・災害対策

- 防災についての事業所内で検討する機会を設定する。(防災計画の再周知・徹底、非常食や必要物品の再確認を目的としたもの)
- 防災訓練を行う際は事前に町内会長の元に案内文書を持参し近隣地域に回覧していただく。
- 民生委員や近隣の教育施設に対し、災害時には障害を持つ方へのサポートや一時的な受け入れが可能という旨の文書を出し、災害時の役割を知って頂く。また、改善計画「C」の活動報告等の回覧文書に災害時の役割についても記載する。

- 消防立ち合いの訓練の総評の際に、聞けるだけ質問し、アドバイスや各職員が振り返る時間を多く取るようにした。
- コロナウイルスの影響により、大勢での訓練は出来ず。近隣地域、民生委員との連携もその影響で取れなかった。

- 避難訓練は繰り返すことで万が一に備えられるものだと思う。また、地域の人と緊急時に助け合う事が出来る関係を築いてほしい。
- 夜間火災想定緊急連絡網訓練など新たな取り組みがよかった。
- 災害時には、一時的でも福祉避難所として頼りになると思う。地域の方にも知って頂けるように情報発信をして頂けたらと思う。
- 健常者世帯はプラット新町を頼る必要はありませんが、介護が必要な世帯は心強い避難拠点となると思う。ただ、懸念材料として限られた職員数で果たして受け入れられる事が可能なのか？職員の方々も被災している前提で受け入れ体制を構築してもらえればありがたい。

- 様々な災害想定をし、新たな想定訓練の模索していく。また、職員にアンケートを取りどんな訓練が災害時に役立つのか現場の意見も反映しながら訓練の計画をしていく。
- 老健あらまちとの合同訓練を継続しながらより多くの施設(新町事業所群内)との合同訓練を計画し実践する。
- 前年度に引き続き、民生委員や近隣の教育施設に対し、災害時には障害を持つ方へのサポートや一時的な受け入れが可能という旨の文書を出し、災害時の役割を知って頂く機会を作る。